会 議 録

会 議 名	山陽小野田市中学生の文化・スポーツ活動体制整備協議会（第2回）	
開 催 日 時	令和6年3月25日（月） 18時～19時25分	
開 催 場 所	山陽小野田市役所3階 大会議室	
出 席 者	平中 政明、吉水 多加志、中村 夏江、岩間 英昭、 重永 澄恵、村田 晋一、西村 公一、岸田 茂、 松永 進、東原 秀一、山本 時弘、下瀬 昌巳、 河本 渡、宮崎 光巨、宇野 直土、藤山 雅之、 篠原 正裕	委員数 17人 出席者数 17人 欠席者数 0人
参 与	長友教育長	
事務担当課 及び職員	学校教育課 長谷川課長、佐野主幹、井上係長 文化スポーツ推進課 原田課長、三浦補佐、吹金原、別府	
会 議 次 第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 報告事項</p> <p>（1）山口県 新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針 地域クラブ活動の運営団体・実施主体のモデル・イメージ</p> <p>（2）他市の事例紹介</p> <p>参考資料 事例1 宇部市 参考資料 事例2 長門市 参考資料 事例3 周南市</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）本市における中学生の文化・スポーツ活動の在り方について</p> <p>（2）その他</p> <p>分科会（競技ごと、団体ごとの意見集約）の進め方について</p>	
B委員	<p>次第3 協議事項（1）本市における中学生の文化・スポーツ活動の在り方について</p> <p>中学校の教員をやりながら、小学生のバレーボールの世話をしてくれこれ20数年になる。バレーボール協会の方も理事をしている。現状を言うと、小学生のバレーボールチームは登録が4チームあるが、実質活動しているのは3チームである。5～6年前までは8チームくらいあったが、徐々に減っていき、男子チームはなくなった。男子の単独チームは県下でも12～13チームくらいしかない。市内にもかつて2チームあったが、すべて消滅している。女子の単独チームもかなりあったが、現在の3チームはすべて混合チームである。男子の中に女子が入ったり、その逆であったり、県内でも混合チームが増えているのが実態で</p>	

	<p>ある。中学校も男子チームがない。ここ2、3年で宇部市で宇部クラブという男子中学生のクラブチームを活動している。本市の子ども達もそこに行っている。そして厚南地区に女子中学生のクラブチームが1チームあり、最新情報では西宇部に女子チームを作ろうとしており、受け皿を増やす形で進んでいる。小学生の場合は宇部ブロック内での活動をしており、県に続く大会など、全て宇部ブロックで予選を行っているため、山陽小野田の子ども達が宇部のクラブチームに行く形をとっている。昨年度から市内の中学校のバレーボールの先生と進めていこうとしている。昨年JTサンダースの方5名ほどにバレーボール教室もお願いした。今年度は早くから予定を入れ、先方に連絡し、6月2日の日曜日に高千帆中学校をお借りして開催できた。その他、今年度は体育館を1日キープし、6年生が中学校に上がる前に、受け皿として保護者も入りながら予定しており、中体連のバレー部の関係の先生とスポ少の役員と打ち合わせして段取りを進めている。土日の活動が中心となるが、地域連携をどのように進めていくかを検討中。バレーは合同チームをどんどん編成しないといけなくなっている。今市内で4チームくらいかそれより少ない。その中で地域移行を考えるにあたり、余談であるが、山口県教育委員会の小野田支部の役員会がありこの話も出たが、市内には理科大があり、どんどんチームの活動に入ってくれている。全国の2,000人以下の大学の中で地域移行への参画が多い。ベスト20位に山口県が3校入っている。第1位が周南の徳山大学、2位が理科大学、15～16位に山口県立大学が入っている。理科大生が市の行事等でもどんどん参加してくれている。11月2日に県の教育大会が入っている。理科大の池本理事長にも講演をお願いしている。その時に学生の地域行事への参画もお願いする予定である。文化部も吹奏楽の問題がある。これも楽器の運搬等が難しい。埴生に着任した時に吹奏楽部が休部になった。子ども達の人数が減り、指導者もいなくなったりして、総合文化部という形で残し、週に何回かするという活動を行っていたが、2年目に入ってその活動も縮小していった例がある。先程の長門市や周南市も吹奏楽の例があるが、そのあたりも踏まえながら今後の協議になると思う。</p>
C委員	<p>すげえちゃ高泊の現状は、卓球、水泳、バドミントン、わくわくサッカー、部活動ではないかもしれないがダンスのクラスを運営している。毎週活動しているもの、週1回や週2回のところもあるが、対象者は市内に限らず幅広く募集している。これからの話になるが、運営側の問題があり、高齢者やボランティアの人達ばかりで存続が難しいこともあり、若い人を入れたいと考え、今後年会費を上げて、謝金を払える仕組みに変更していきたい。それに伴い、いろんなクラスが準備できている。5月からは卓球の指導をお願いしたり、サンバの教室が入るようになる。</p>

<p>I 委員</p>	<p>ピアノの先生も教室をしてくれるという話もあり、これからクラスを増やす予定である。部活動の地域移行の受け皿になれるように、どんどん増やしていく予定である。</p> <p>お手元の資料のとおり説明させていただく。競技かるたの場合、今後協力できることはないかと考えたところ、現行中学生の場合はかるたの部活動はない。学校でかるたを取り上げているところは竜王中学校で、歌を覚えて心を養っていくということで、前校長の時代から使われている。私が小野田中学校の頃は、社会科の先生がいらして、その先生が夏は野球、冬はかるたで、今では考えられないスパルタの先生で、その指導の下、野球は強くて、かるたもクイーンを目指しており、その先生が竜王中に変わってからも、沖 美智子さん、堀澤 久美子さんという2人のクイーンが出てきている、そういう市に生まれ育ってきている。その先生の指導を受けてきたものが現在集まってきている。山口県かるた協会の中に山陽小野田市も組み込まれており、山口かるた会という中に山陽小野田、宇部、楠、下関、長門、萩、周南、防府、小野田高校、山大、東京理科大などが、それぞれかるたの活動をしている。普段は10名以内で活動している集団が多い。山陽小野田かるた協会の場合は現在週2回くらい、地域交流センターを借りて夜2時間くらい活動している。市の事業として学校かるた出前教室や、かるた大会等を開催し、市内の幼・保育園、小中学校にかるたを普及している。山口県かるた協会の上位団体として全日本かるた協会があり、このかるた協会は名人やクイーンといったようなメインのタイトルを持てる主催の大会、公認大会という全国各都道府県で公認されている大会、後援大会という公認までには至らないけれども後援している大会というものに分かれている。昔はお正月にやるかるたのイメージだったと思うが、今では毎月全国の都市で行われている環境で日々行っている。現行中学校の部活動はないが、3年後くらいに中学生の希望者が竜王、小野田、高千帆、埴生、厚狭、厚陽の6校から何名あるのか知りたい。指導については、大人一人は立ち合いが必要になる。その立ち合いの下、指導していく。小野田高校では指導に行っているが、自転車操業ではあるが、伝統もできてきてもうまく回っている。指導者が高齢化しているため、数年後は不安ではあるが、高校生や大学生の力を借りながらやっていく。場所については、会場は中学校に行き行って教えられたら良いが、多勢に無勢のため、一つずつやっていきたいこともあり、中学校の施設をお借りしたい。他には、地域交流センターや福祉センター、小野田高校の武道場を使えばできるのではないかとこのざっくりとしたイメージを持っている。また、協会員から質問が出たが、活動場所は学校施設を開放できるのか。土日どちらかで半日活动であれば協力できる。大人のかるた協会員が指導者とな</p>
-------------	---

	<p>る。土曜のみではなく、活動が軌道に乗るまでは平日にも指導する。合同練習する交流の場もある。近隣の小中学生の会員、大人の会員、小野田高校生、慶進高校生、周南市の桜が丘高校、長府高校、理科大生、山大生、山口県の各支部の会員なども交流の場がある。場所は、武道場、中学校、地域交流センターで月に1、2回。たまに島根県益田市や広島県尾道市、北九州の方からも来られたりする。年1回下関市の吉母というところで、合宿練習がある。県内外の大会参加もあり、中学生個人戦、団体戦などもある。年齢に関係のない大会もあり、大会成績により昇段もある。中学生にも大会運営のお手伝いをしてもらうこともある。全国山口大会は、初心者大会なども考えている。課題としては、今後学校のコンタクトが取れる窓口の先生が必要。スケジュールリングの時に学校の試験や行事が土日にかかっていたら調整する必要がある。また1カ所でまとめて活動する場合は移動が必要となり、これを父兄の送迎や公共交通機関を利用するなどの問題がある。責任や保険の問題、対価などお金の問題もある。土日には直接関係ないが、大会への子ども達の引率や大会での公休の問題。以上であるが、もし希望者がいれば協力していきたい。</p>
<p>H委員</p>	<p>高千帆の吹奏楽部は順調のため、そのままいったら良いが、子どもが減っているのは事実のため、いつかXデーが来る気がする。前回この席で須恵小学校の現状をお話ししたが、6年生の活動がすべて終わって、みんなを集めて、少なくともこの2年間は何も活動できない事を伝えたら、5年生以下の子ども達が泣き出した。現実にできない状態である。できないのは1校でやるからであり、合同にすればできればと思っている。</p>
<p>N委員</p>	<p>個人的な意見となるが、小学校から長年バレーボールをずっとやっていて、吉水委員が言われていた3チームのうちの1つのクラブチームに息子と娘が行っているが、次に小学校6年生になる息子が中学校に上がった時に、小野田中学校はバレー部がなく、宇部JFCというのがあるのは知っており、そこに行っている小野田の人達も知っている。クラブチームに通うかどうかの選択を迫られている。私は女子のJFCのコーチとして参加している。女子は厚南、男子は藤山で、学校終わって送迎はどうするのか。親御さんは大変になる。小野田にも作れたら良いなという話になっている。そのような事もあり、この会合があったときに、委員として立候補したが、箱を作るのには、指導者がいるし、私の場合は私がやるしかない、やりたいという気持ちはあるが、会場はどうするのか等課題がたくさんある。宇部に「まほろば」というクラブチームができており、中学校で部活をしている人達が別でも活動したいということ</p>

	<p>で、女子の希望者が30人くらい来ている。指導者が私の先輩で、ここ1年くらいで立ち上げたと聞いている。来年4月1日から指導を始めると聞いている、その方にどのように進めていったか聞きたいと思っている。前回の会議と今回の会議を聞いていて、今から方針を決めていくというのは遅すぎるのではないかとというのが正直なところである。どこの市にしてもこれをやれば完璧ということはないと思うので、どういう形であってもトライアンドエラーではないが、他市がやっているようにとりあえずやっていく。そして改善をしていく。1年1年ステップアップしていくような進め方をしていかなないと、このような形で2年間協議したところで何が得られるのか不安である。分科会をやるという話があるのでそこに期待して、私が言っていた不安要素がなくなっていけば良いなと思っている。バレーボール以外のスポーツに関しては情報がないためわからない。</p>
<p>○委員</p>	<p>個別のスポーツの指導に関わっているわけではないので、運営側から意見を述べたい。最初に御説明があった県からのクラブの在り方の16ページから18ページで、実施主体となるモデルイメージがいくつか示されている中で、私自身は本市の現状に合っているのが①または②ではないかと思う。理由が2つあって、1つ目はこの地域移行が他市と比べて比較的遅れている。それを踏まえて関係者にとって今後決めていく組織体制であったり、窓口がわかりやすく情報にアクセスしやすいところと考えている。例えば①または②以外の③や④では既存クラブや新設クラブが主となる宇部方式や周南方式は、恐らく情報アクセスの格差や機会の不平等が生じやすい懸念がある。機会の不平等は、学校を離れるならそれはそれではしょうがないと言われる方はいるかもしれないが、文化・スポーツの機会がすべての子ども達に開かれたものであって欲しいと考えるため、なるべくアクセスしやすいものであってほしい。2つ目の理由は、連携や総括がしやすいからである。地域移行を担うためには、学校や行政との調整、指導者情報の管理やその提供、競技団体との連携や財務管理などの多岐にわたる機能が求められる。これは質問になって申し訳ないが、例えば②のモデルで進めて行こうとなった場合に、スポーツ協会や文化協会などは、事務的機能を担う団体として期待される場合、現状そういった機能が担える可能性があるのかどうか。スポーツ協会の会長さんにお尋ねしたい。</p>
<p>A委員</p>	<p>スポーツ協会として担えるかという御質問があったが、まだそういう所まで話はしていないが、現在スポーツ協会の事務局は市の職員がやっている。市に何もかもやってもらうのは負担であるため、これから検討していかなければならないとつくづく感じているところである。今のとこ</p>

	<p>ろ誰がやるとかいうことはない。</p>
<p>○委員</p>	<p>わかりました。そういう現状であるということできくつか事務的機能に対する案も私自身持っているが、今回はそのような発言は控えたいと思う。その機能を強化していくことは、今後いろいろな混乱を招くという意味でも大事だと感じている。</p>
<p>K委員</p>	<p>私も宇野委員が言われたことがとても大事だと思っている。まずこの協議を引っ張って行く組織が必要。それがこの会だとは思いますが、実際にこの組織で様々な心配事項が上がっているがなかなか進まない。2番目の議題の分科会の件も上がっているが、分科会ごとのリーダーが必要である。そのリーダーがいるのか、そのあたりが不安である。宇部市でもクラブをやっているが、それを認定しているのは市である。市が基準を設けて設置し、認定されたら市から補助金が出る。また、会場の調整や活動補助など、簡単に書いてあるがとても重要である。できるところからやっていくスタンスは大事である。例えば、バレーは宇部と関係を持っている。宇部に行っている子が今年JOCに選ばれた。進学もそちらの方面に進んだ。吹奏楽も難しい。小学校の活動が中学校にもものすごく影響する。今なんとか厚狭、高千帆、小野田は吹奏楽ができていますが、人数も減ってきている。これを進めていく母体となる市の組織や事務局が必要ではないか。スポーツ協会や文化協会がそれに耐えられる組織ではないかと思う。こういったところから協議していく必要がある。</p>
<p>J委員</p>	<p>中文連という立場で話すが、吹奏楽は楽器の管理、保管、古い楽器の取扱いが出てくる。公的な組織が会場の確保、学校や市民館などを確保してやっていく必要がある。文化系は特に市教委との連携がなくては難しいと考えている。今からの流れの中では、小野田、高千帆、厚狭あたりで他の生徒がやって来て、そこで練習する必要があると思う。私自身はスポーツの人間で、サッカーをやっている。その立場から言わせてもらおうと、中体連や中文連の名前がつくと様々な縛りが出てくるため、それぞれの種目の連盟や協会がしっかりと発展を目指して、どうすべきか考える時期に入っている。そういう中で連盟や協会に対応するのが大前提であり、②の形が一番良い。それぞれの団体の課題は、指導者の確保、指導の資格を持っているかなどの人材の把握が必要である。当然のことながら、指導者への謝金の設定もあり、有資格、無資格で差をつける。種目で差が出て良いのかの協議も必要である。教職員の中にもやりたい方がいるので、兼職兼業を許すような状況や時間の確保が必要である。道具の確保や保管もどこがやるのかも必要である。連盟や協会がそれぞれ動く必要がある。たくさんの種目の団体が関わってくるとなか</p>

	<p>なか足の引っ張り合いでうまくまとまらない。「中学生の文化・スポーツ活動体制整備協議会」という名称は非常に良いと思っている。文化活動、スポーツ活動をいかに続けていくかというのを考えるというのは、非常に画期的な名称だと思っている。それぞれスポーツ協会や文化協会が主導でしっかりと1～2年の間にしっかりといろいろな話が進めていければ良いと感じている。</p>
A委員	<p>私共スポーツ協会も令和4年度にアンケートをしており、2年前になるが把握をしているつもりである。なかなか指導のできる指導者が少ない現状である。教育委員会ではどのような方向性を考えているか聞きたい。</p>
事務局	<p>教育委員会では、今後、子ども達が休日の移行先をどのように確保していくかが重要であると考えている。まずはそこをどう動かしていくかが必要であり、協会や団体のグリップが必要である。そこに協力をいただかないと進まないと考えている。どの方向性で進めていくのが良いか御意見を頂戴したと思っている。土日の移行がキーとなる。文化・スポーツそれぞれから、こういった方法が取れるのではないかという貴重な意見をいただいた。かるた協会からも、具体的な提案を頂戴した。子ども達の受け入れ先を具体的にいただければ、そことマッチングしていくことができると考えている。本日いただいた御意見をしっかりとまとめていきながら、方向性をつめて考えていきたい。</p>
会長	<p>主役は子ども達であるため、子ども達が困らないように、大人がサポートする必要がある。各人の意見をいただいたが、事務局として何かあれば。</p>
事務局	<p>今回の場合は皆様方の意見を聴取したいという意図であるため、事務局としてこうしていきたいという意見はないため、引き続き意見をいただきたい。</p>
	<p>次第3 協議事項(2) その他 分科会(競技ごと、団体ごとの意見集約)の進め方について</p>
F委員	<p>早く分科会を持つべき。事務局で音頭を取らないと、誰が集めるのかという話になるため、事務局の方で線引きをして集めて、かるた協会さんのようにやるとしたらこういうふうなことができますよ、ただこんな課題がありますよという方向をしっかりと出してもらって、意見を吸い上げた上で事務局の方で市の方向性を早く出すべきではないかと思っています。</p>

	<p>る。そうしないと、どんどん遅れると思う。</p>
G委員	<p>文化協会が文化部門を取りまとめていく形が良いと考えている。ただ文化協会はスポーツ協会と違い、市に事務局がない。独自に事務局を構えており、事務局としては弱体である。まずは事務局を強化して、受け皿となって進めていく必要がある。文化協会には、学校関係で言えば、吹奏楽、合唱、茶道、書道、絵画など多岐にわたって団体が所属している。それぞれの団体で活動しているが、それぞれの事務局が独自で受け皿になるのは難しい。文化協会が受け皿となって各部門にお願いする形となる。それには財政的な支援が必要になる。報道によると萩市が活動整備強化で1,300万円の予算を取っていると聞いたが、山陽小野田市ではどのような予算となっているのか。</p>
事務局	<p>本市は令和6年度は協議会の委員報酬のみである。</p>
G委員	<p>それは他市に比べて遅れているのか。</p>
事務局	<p>遅れているというか、今のところ国、県もそれぞれも予算定義ができておらず、どういったものに補助金が出るのか決まってないというのが正直なところである。方針は出ているが、皆様が言われるように財源をどこが出すのかというのがはっきりしていない。その中で、萩市の状況は再度確認するが、単市がやるとなるとほとんどの市町が実質はできないと思っているため、そのあたりは何が取れるのかを再度確認していきたい。</p>
G委員	<p>予算的な裏付けがないと、前に進めて行きづらいというのがある。謝金以前に、事務局の整備の段階でも予算的な裏付けが必要になるため、そのあたりも検討していただきたい。文化協会としては、受け皿として進めていく気持ちはある。</p>
事務局	<p>4月に入れば早々に各団体の方に文化スポーツ推進課を中心として、協議の依頼をかけていくつもりである。学校の方もそれぞれ顧問の方等にお声掛けをお願いしたい。先ほども申したように、予算が国、県も全く見えていないというところで、いくつか補助金の制度があるが、それは先行的な事例や特異な事例のみ摘要されているものと思っており、本市としての目的は、前回のスケジュールにも提示したが、この秋頃までに市の方針を示したいと考えている。これに関して秋頃までに国等の予算がある程度明確化してくれば、本市も補正をするなどして予算を計上していくつもりであり、令和6年度の予算がないからと言って何もしない</p>

	<p>とは思っていないため、そのあたりはお含みいただきたい。引き続き、4月末ないしは5月に会議をしたいと思っている。委員の中にはこの4月に交代されると聞いているため、一部メンバー変更を加えながら、引き続き進行していきたい。</p>
--	---

～ 終了 ～